

エリザベス女皇の行幸がありながらく人氣があつた。有名なる英國の僧リチャド・バクスタ (Richard Baxter) 小説家ヘンリ・フイールデン (Henry Fielding) 小説家ブルワ・リットン (Bulwer Lytton) 亦この地に居住した。一九二一年一選舉區となり一人の代議士を選出す。人口約六萬三千。

新著紹介

○地理學年報

第一卷 東京文理科大學地理學教室内地
理學年報編輯所編 六月 日黒書店發行
定價一回八十錢

本邦地理學界が急に發展して來て文獻の現はれること世界一とも思はれる位で、關係雜誌や論文集をそろへることさへ一通りでなく、まして之を讀破し、了解することが困難になつた。恐ろかなりえらい勢力のある地理學愛好家でも地理學論文を大體でも精讀する人はあるまい。茲に幸なることには地理學年報が今村學郎氏の主幹の下に公にされたことで第一部研究及第二部展望の二綱目がある。此の年報の主要な目的はその展望にあるらしく主として昭和七年に於ける文獻の解題若しくは解題を兼ねた批判である。下村氏の地圖類には二

新著紹介

○郷土地理研究

内田寛一著 雄山閣版 定價二圓

本書は畏友内田寛一君が郷土、郷土科學乃至地理教育などに發表された論文集といふべきものであるが、菊版二八六頁の手頃な參考書として、近來の郷土地理學書のうち特に注目すべき良書である。予は昨年郷土教育主催の講習會に招かれて同君と久し振りに面語し、いろ／＼の蒐集を見せていただいた事であつたが、今本書の發刊に接し、更らにその欣喜を再びするの感がふかい、同右の此方面に於ける蘊蓄については讀者の既に熟知せらるゝ所であるから、敢てこゝに本書の特徴を述べる必要を認めないが第二編第一章住家に關する種々の考證は、著者獨特の壇場がほの見えてゐて敬服に堪へない處が多い、予は今にしてかゝる好著の出たことを報告すると同時に著者の筆硯の愈々盛んならんことを祈るものである。(藤田)

○地理學批判

川西正鑑譯補 有恒社發行

一冊

七五

定價二圓三十錢

菊版二七二頁、カールアウグスト、ウィットフォォーゲルの「地理政治學、地理的唯物論及マルクス主義」といふのを譯したものである。由來譯文はどうしても原文から離脱しきれないから、之を讀むでカラリと晴天のやうに氣持よく理會が出来ないものではあるが、著者は餘程注意されたとみえて、行文流暢である。猶又かうした地理學への批判は今日迄我國には現れなかつた者であるから、恐らくは多數の讀者の支持をうるであらうと考へる。(藤川)

○歐米大陸遊記

鶴見祐輔著 大日本雄辯會發行
定價二圓

現代雄辯の大家鶴見氏最近の外遊記である、四六版七九〇頁の大冊で縦横論議の華々しい讀み物であるが、特に上海出兵當時のアメリカの事情などを讀んで、天涯の孤客の奮闘の跡に涙ぐましい感をそゝがざるを得ない、やがて巴里や伯林に於ける聯盟と日本との交渉のあつた當時の見聞録として本書から得る所は多い、敢て大方の一讀をすゝめる。(藤田)

○地球

坪井忠二著 鐵塔書院發行 定價八拾錢

地球の物理的概観の平易な解説書としてききに中村左衛門太郎博士の著書あり、更に平易の書として今こゝに本書を紹介し得るは讀書界のため慶賀に堪へぬ。四六版百餘頁の小冊子であるが、地球の形と大きさ、質量と剛さ、大陸と大洋、

地震と地殻の變動、地磁氣、地球の年齢、地球物理學の應用の七章より成り、巧みに物理的地球の性質の輪廓を教へて呉れる。著者の口述の筆記故難しい術語も少く頗るわかりよいが同時に科學的嚴密さも失はれてない。「地震に關する研究或は觀測と言ふものは世界中でも我國が最も進歩してゐると言つて差支へない。現在地震學と稱せらるるものゝ輪廓が殆んど我國の研究者によつて組立てられて居ると言ふことはまことに愉快なことである。」と地震研究所々員たる著者の口より聞くことは心強き限りである。地震と地塊運動の章は著者の獨壇場でいろ／＼新しい説も聞かれ、全體として現在の震研風なるものの匂を否定し得ない。白色金文字の頗る瀟灑な裝訂、鐵塔科學叢書の第二篇。なほ同叢書として令兄坪井博士の「岩石」その他地學關係のものも少からず續いて刊行される由。(尾山生)

○郷土地理教育の原理と方法

佐々木清治著
菊版四八八頁 賢文館發行 定價參圓八拾錢

本書の前半は郷土地理教育の理論と方法を記し、郷土地理教育の原理、郷土地理教育の實際、郷土地理教育上の諸施設、郷土調査の地理的視角、郷土地理研究の基礎の五篇二八〇頁を占め、統計法・圖法・調査法・學習指導案・郷土室の設備法など實例を掲げ具體的に述べてある。郷土室を産物や遺物の陳列所に終らしめぬは大賛成である。後半は郷土地理研究の進化と題する第六篇で、各種産業形態・交通・人口・村落、

都市・地名考等を七章に分けて記述す。これはさき「郷土の地理的研究法」として世に問ひし處を更に資料を添加せしもの。多くの例が東海をとつてゐるが他地方の者も暗示を充分に受ける事が出来る。獨特の境地に氣を吐いてゐる著者の大努力に敬意を表し、良著として推稱する。圖版多く、表裝典雅、發行は昭和七年九月。(尾山生)

○本邦を中心とせる石炭需給

東亞經濟調査局編

並發行 菊版三一〇頁 定價壹圓五拾錢

動力資源として重要な石炭が今日既に國內の需要を充し得ない。將來は佛領印度支那の無煙炭や濛洲の未開發炭田も發達するかもしれないが、本邦にとつて重要なのは矢張り滿洲國及び北支の石炭である。滿洲炭の本邦に對する價值問題は撫順炭輸入制限問題より見て立體的檢討が絕對必要となつた。

滿鐵が内地市場を攪亂するは不可であるが、内地市場が内地炭礦業者のカルテルで獨占される事は滿洲事變に際する國民の期待を裏切る。日滿統制經濟に對する第一の難問として此の石炭問題が起つた。本書の目的は之の解決策に充分な資料を供給するにあるのだが、我々には東亞に於ける商品としての石炭の百科全書として重寶な本である。例によつて周密な統計表や圖表類が頗る多い。經濟地理乃至商品學のよき資料として紹介する。(尾山生)

雜報

○廣東の水産

廣東料理といふ位であるが水産が多い土地である。汕頭沿海では海岸リヤス式で屈曲に富み、天然の良港があるし、水深三尋乃至四十八尋、海底砂泥で魚が多い

南澳汕頭等が中心で漁船各二百餘隻あつて、鮫、勒魚、鰻、比目魚、黃花魚、帶魚及鱘魚を主とする。つぎは海豐縣の遮浪島を中心とする漁區で金線魚、赤鯨、紅三魚、鰻魚、鰱魚、鱈魚、鱸、烏賊及び蝦がとれる、香港近海には珠江口一帶と外海とで魚の種類がちがい、珠江口では鹹魚、白翅、鱒、小蝦等がとれる。つぎは海南島一帶の沿岸で三亞と北黎が中心漁港で赤鱣、金赤魚、比目魚、鮪。鰻等の捕獲が多く漁船一千隻、年産千萬元に上る。つぎは陽江の水産で、沿海の住民は過半漁業に従事し年約五百萬元に達する、其他澳島の漁業も亦古來盛であり遠海漁業に従うものが多い。猶珠江では淡水養殖事業が盛で、大頭魚、鯿魚、鮠魚、鱖魚を飼育しこれに従事する民衆亦多い。

○筆に用ひる毛

毛筆をつくるに適した獸毛は其性質が素直で、且つ尖が極めて細く、さうして柔かく、中程より順次剛く毛根に至つて極めて勁く彈力のあるものでなくてはならぬ、そこで同じ獸類の毛といつても腿下、内腿、下腹等の部